



【感謝を学んでの一週間】

一週間、学んだテーマを思い起こしましょう。それぞれの章の中心的思想と思われるポイントを下に記しておきます。(もっとあったと思いますが…)

- **1日 10%だけが味わう人生の秘密の鍵、感謝** 「考え、記憶、感謝」は兄弟言葉である。感謝は単に「ありがたい気分」の情緒的な反応ではなく、考え、記憶する「認識と意思」の領域の事柄である。
- **2日 私の人生の条件反射、感謝** 感謝は気質ではなく、訓練である。「幸福の分量は感謝の分量と一致している」というのは深遠な真理。良い模範：ジョニー・タダ、ネルソン・マンデラ
- **3日 奇跡を起こす習慣、感謝** 脳に感謝の道を作ることが大切。「考えが言葉になり、言葉は行動になり、習慣が人格になり、人格は運命を形作る」。何事でも習慣化するには21日かかる。
- **4日 あなたの人生の読解力は何点ですか** リンカーンは度重なる不運の中でも感謝によって人生を切り開いて行った。感謝によって人生を解釈する力を身につけることが大切である。
- **5日 人生の最高の遺産、感謝** 子供に残せる最大のものは「感謝の人生」ではないか？高い所から地上を眺める飛行機の窓のごとく、神さまの視点から感謝の目をもって人生を見ることが肝要。
- **6日 感謝の感覚を呼び起こす** 既に神さまから多くの恵みを受けているのであるから、それらを「見ることのできる目」を養うことのことが大切である。まずは小さなことに感謝する人になろう。
- **7日 私の魂の感謝旋風** 感謝は「探そうと思うと見つけることができる」ものであるが、20は見つけられても100は困難。しかし創造性を発揮すればできるのである。困難な状況から立ち直る力、「回復弾力性」は感謝できる能力と密接に結びついている！



【今日は教会歴では「棕櫚の聖日」です】

英語では PALM SUNDAY、エルサレム入城の記念です。

【先週のメッセージより】 ヤコブ3：1～12

「ことば」なる神に似せられた私たち人間に与えられている最も崇高な賜物、また偉大な能力は「ことば」である。しかし墮落により、この最も優れた能力が人間を最も汚すものとなった！その主要な器官、舌を清めることはクリスチャンにとって必須課題であるが、神はその処方箋として神はヨシュア1：8、詩篇1篇で「昼も夜も」「律法、主の教え」を口ずさむように命令された。幸いなことに人間には口が一つしかなく、主の教えと同時に悪い言葉、不信仰な言葉を口にすることはできない。これから「感謝を習慣にする21日」の本を学ぶが、主に対する「感謝」がいつでも口から出てくるよう、練習し、習慣化し、人生の舵を祝福と主の御心を行う方向へと切っていく！

【受難週 (Passion Week) を覚えて】

イエス様が通られた最後の一週間の道のりを辿ってみましょう。

- **日曜日 (棕櫚の聖日) エルサレム入城** 墓から出てきたラザロのニュースが広まる中、大勢の群衆がロバの子に乗ったイエスを迎えた。
- **月曜日：宮きよめ** 神殿の庭での両替、いけにえ動物の販売等の商売で大祭司らは莫大な利益を得ていたことに主は聖なる憤りを示された。
- **火曜日：宮における最後の一日** 弟子たちに対する教えと、敵対するヘロデ党、パリサイ/律法学者、サドカイ人たちとの問答の一日となった。
- **水曜日：ベタニヤにおける一日** らい病人シモンの家に滞在し、ベタニヤのマリアが香油をイエスに注ぎ、ユダは大祭司を訪ね、主を裏切った。
- **木曜日夜刻：最後の晩餐、ゲッセマネの祈り、捕縛と連行** 過ぎ越しの祭りの前夜、主は弟子たちの足を洗い、過ぎ越しの食事に置き換わるべき「聖餐式」を教えられ、最後に祈りの格闘をされ、そこで勝利された。
- **金曜日夜中～早朝：大祭司、ピラトの前での審問** 大祭司らは違法な裁判でイエスを罪に定める中、ペテロは三度主を否定する。ローマ総督ピラトはイエスに罪を認めなかったが民衆の圧力に負け、死刑執行を決定した。
- **金曜日朝9時～午後3時：十字架刑** イエスは犯罪人二人と共に十字架につけられた。昼に陽は光を失い、イエスの死とともに大地震が起きた。
- **金曜日夕刻前：葬り** イエスはヨセフとニコデモとでヨセフの墓に葬られる。
- **日曜日：復活！** 三日目の早朝、もはやイエスのからだは墓になかった！